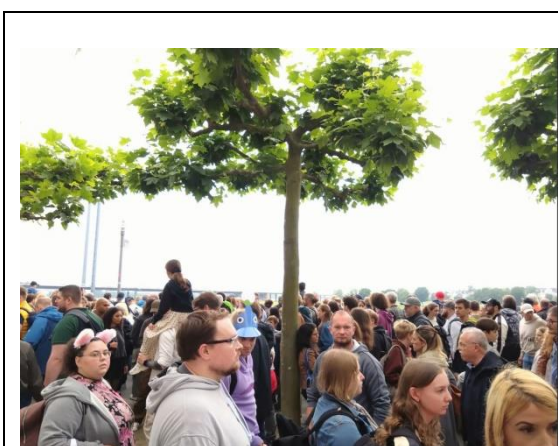


## 「日本デー2024」（ドイツ・デュッセルドルフ）出展報告書

イベント名	日本デー デュッセルドルフ/NRW 2024 (Japan-Tag Dusseldorf/NRW)
日時	2024年6月1日(土)
場所	ドイツ・デュッセルドルフ ライン川周辺
主催者	デュッセルドルフ NRW 日本デー協会 (デュッセルドルフ日本商工会議所、デュッセルドルフ日本クラブ) ノルトライン・ヴェストファーレン州経済・イノベーション・デジタル化・エネルギー省 ノルトライン・ヴェストファーレン州貿易投資振興公社 デュッセルドルフ市
参加者数	62.5万人(主催者発表)
ホームページ	<a href="https://www.japantag-duesseldorf-nrw.de/jp">https://www.japantag-duesseldorf-nrw.de/jp</a>

### 1 イベント概要

日本デーは、ドイツ・デュッセルドルフのライン川沿いを会場に行われるヨーロッパ最大級の日本文化イベントです。2002年から始まり、コロナ禍に2回の中止を経て、今年で21回目を迎えました。会場内にある複数のステージでは、和太鼓や日本舞踊、コスプレファッションショー大会やカラオケ大会が行われたほか、生け花、日本語教室、着物の着付け体験など、様々な日本文化に関するブースが出展していました。また、日本の地方自治体からは、デュッセルドルフ市と姉妹都市提携を結ぶ千葉県と、ノルトライン・ヴェストファーレン州と再生可能エネルギー等の分野で MoU を結ぶ福島県が出展していました。23時からは日本人の花火師による大規模な花火大会も行われました。



来場者で賑わう会場内の様子



日本人花火師による花火

### 2 当事務所ブースでの出展内容

- (1) 各地方自治体からのポスターの掲示とパンフレットの配布

クレアブースでは、各地方自治体から募集したポスターの掲示とパンフレットの配布を行いました。パンフレットは約400部用意し、来場者が分かりやすいよう北から南に都道府県のパンフレットを並べて、ブース入口付近の机に配置しました。多くの来場者に関心を寄せていただき、パンフレットは終了予定時刻より早くなくなりました。その後は、事務所で作成した各地方自治体のHP、SNS、パンフレットのQRコードをまとめた一覧表を使って、日本各地のPRを行いました。日本に行ったことのある来場者も多く、ブースを訪れた時点で既に旅行先やアクティビティを決めている方も多く見られました。具体的には、「富士山へ登山をしに行く予定だが、何か事前の届出等はあるか」、「海女さんに興味があり、直接会えるツアーなどはあるか」などといったご質問をいただきました。



パンフレットに興味を示す来場者

## (2) 書道コーナー

日本文化体験の一環として、来場者の方のお名前をひらがなとカタカナで筆書きする書道コーナーをパンフレットの配布と併せてブース内で行いました。行列が絶えないほどの人気ぶりで、200枚の紙を用意していましたが、午前中にそのほとんどがなくなりました。



書道コーナーの様子1



書道コーナーの様子2

## (3) 折り紙体験コーナー

同じく日本文化体験の一環として、書道コーナー終了後に折り紙体験コーナーを設けました。幅広い年代の方に参加いただきましたが、特にお子さんや10~20代の女性が多く立ち寄っていただきました。クレアブースでは、チューリップや虎、蛇、そし

て定番の鶴の折り方を紹介していましたが、今年4月にコペンハーゲンで開催されたサクラ・フェスティバルの際と同様に、知名度の高い鶴が最も人気でした。



#### (4) その他

上記(1)～(3)のほか、当事務所InstagramアカウントのPRを行いました。当事務所のアカウントでは、各都道府県の観光スポットやイベント、郷土料理のレシピなどを投稿しています。フォローしてくださった方には、各地方自治体から提供のあったキーホルダーやクリアファイル、タオルなどをノベルティとしてプレゼントしました。

### 3 訪日旅行にかかるアンケートの実施

来場者の方にご協力いただき、計111名にアンケートを取ることができました。各質問項目およびアンケート結果については以下のとおりです。

#### (1) 回答者の年代および性別

回答者数の半分以上を占める20～29歳および30～39歳を中心に、全ての年代から回答を得ることができました。また、回答者の性別については女性が多く、男性の約2.5倍となっています。

#### 年代

20歳未満	5	50～59歳	18
20～29歳	40	60～69歳	6
30～39歳	28	70歳以上	1
40～49歳	12	不明	1

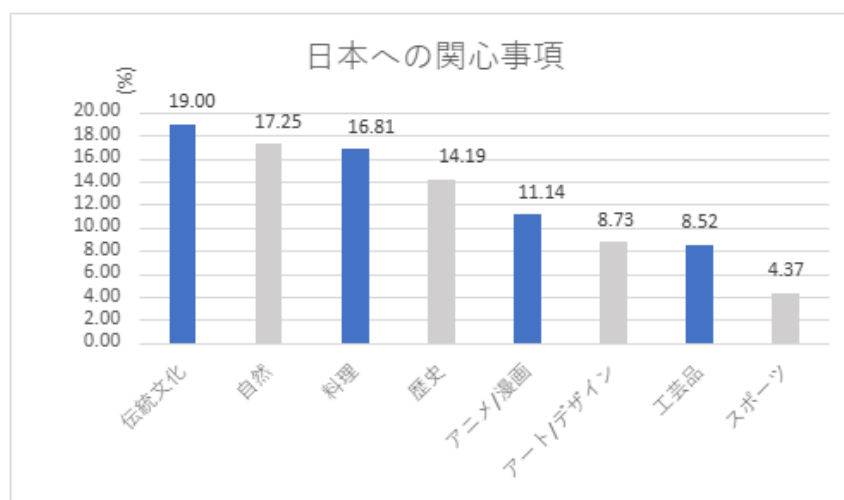
#### 性別

男性	31
女性	77
その他	3

#### (2) 日本への関心事項

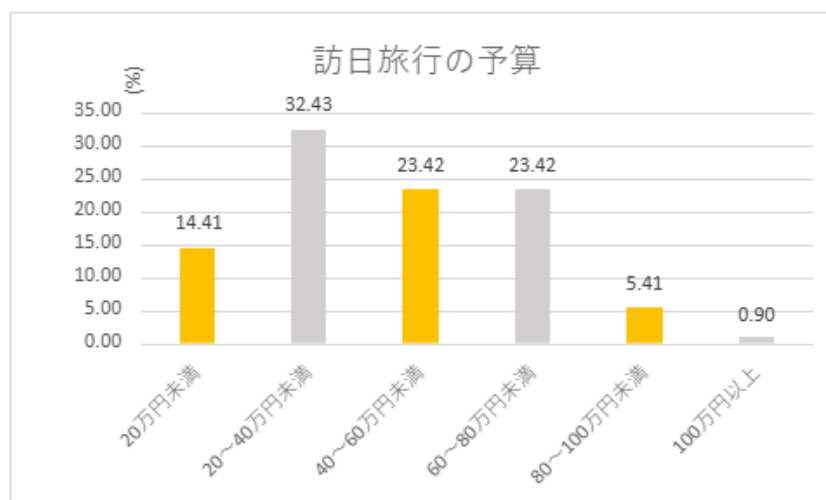
伝統文化、自然、料理に興味を持つ方が多くみられました。この傾向は、今年度のコペンハーゲンのサクラ・フェスティバルおよびダブリンのエクスペリエンス・ジャ

パンで行ったアンケート結果と同様です。このことから、日本への関心事項においてデンマーク、アイルランド、ドイツでの国による違いはあまりないと予想されます。しかしながら、デンマークとアイルランドではわずか8%ほどであったアニメ/漫画がドイツでは11.14%を占めています。アニメ/漫画が他国よりも人気を集めた理由として、ドイツの日本デーにおいて毎年メインステージで行われるコスプレファッションショー大会があることが挙げられるかと思えます。国に関係なく、日本文化イベントではコスプレをする方がよく見られますが、体感としても日本デーのコスプレはより凝っており、完成度が高いように感じられました。

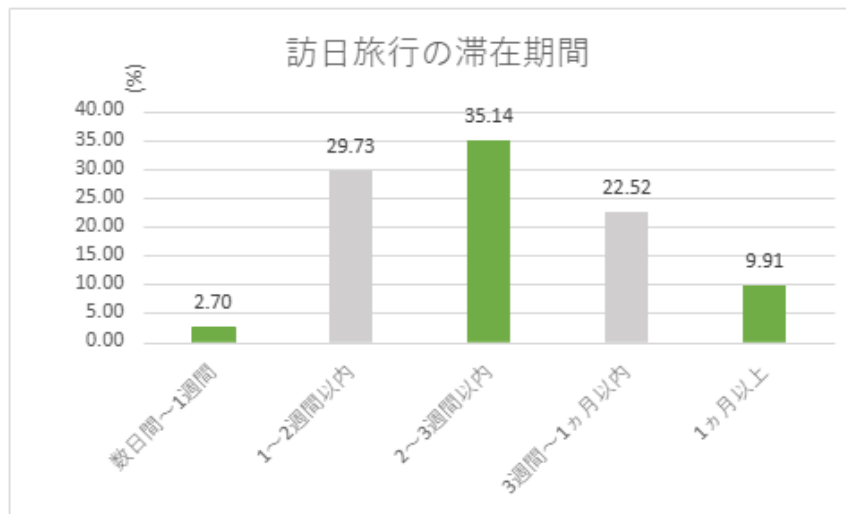


### (3) 訪日旅行時の予算（フライト代除く）および滞在期間

訪日旅行の予算について、20~40万円が1位、そこに40~60万円と60~80万円が続きます。また、滞在期間については2~3週間の割合が最も多く、それに1~2週間が29.73%で続きます。訪日旅行時の予算と滞在期間それぞれにおいて最も割合の高かったものを平均して、訪日旅行時の1日あたりの予算は約0.9~2.8万円/人となります。東京都内におけるホテル宿泊代が、1.2万円~/泊のため、その費用を考慮すると、食事代や交通費、その他観光先での1日あたりの予算は、最大で約1.6万円/人と予想されます。（参考：[東京都でのホテル宿泊代平均額](#)）







#### 4 まとめ

クレアブースでは、ポスターの掲示やパンフレットの配布、そして書道・折り紙体験コーナーを実施しましたが、多くの来場者にお立ち寄りいただき、好評のうちに終えることができました。

日本デーのブースは、今年4月に開催したコペンハーゲンのサクラ・フェスティバルのブースよりも広く、職員やパンフレット等物品の配置については効率よく運営できていたかと思えます。多くの来場者がブースに立ち寄っても、出入りする人々で混雑するという場面はほとんどありませんでした。そういった人の流れはよく管理できていた一方、ヨーロッパ最大級の日本文化イベントだけあり、早々にパンフレットがなくなってしまったため、パンフレット等配布物がなくなった後も、日本各地の魅力をPRできるようなさらなるコンテンツを用意できれば理想的だと感じました。また、2（1）で述べたとおり、具体的な質問もしばしば受けるため、事前に想定される範囲で当事務所職員が下調べしておくことはもちろんですが、その場でリサーチして有益な情報を提供できる力、いわゆる臨機応変に対応することの重要性を実感しました。

以 上